

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 4 月 12 日現在

機関番号：53801

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24720332

研究課題名(和文)ユーラシア東部における遊牧軍制の系譜 - 唐代「府兵制」を中心とした比較研究 -

研究課題名(英文)The Genealogy of the Nomadic Military System in the Eastern Part of Eurasia:Comparative Study Based Mainly on the Fubingzhi of the Tang Dynasty -

研究代表者

平田 陽一郎(HIRATA, Yoichiro)

沼津工業高等専門学校・教養科・准教授

研究者番号：50353280

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の研究期間内に実施した研究およびその成果は、隋の煬帝の警護に当たったエリート奴隸軍人に注目した拙稿「隋代の給使について」(掲載誌の情報は省略)、こうした皇帝親衛兵組織の沿革を長いスパンで論じた「北朝後期における皇帝親衛兵の系譜 二十四軍から禁軍へ」(同上)および「皇帝と奴官 唐代皇帝親衛兵組織における人的結合の一側面」(同上)と、そして皇帝親衛兵となった非漢民族に考察を加えた「隋・郁久間可婆頭墓誌の訳註と考察」(同上)として発表したところである。

研究成果の概要(英文)：In this study duration, I have published four articles on the military system of ancient China. Those articles are as follows: "Regarding the Term 'Gei-shi' in the Sui Period", "The Genealogy of the Imperial Guard in the Latter Period of the Northern Dynasties", "Emperor and Nu-guan: One feature of personal relationships in the Tang Dynasty Imperial Guard", "Yujiulu Kepotou Sui Epitaph: Translation and Notes".

研究分野：東洋史

キーワード：府兵制 遊牧軍制 ユーラシア東部

1. 研究開始当初の背景

(1) 西魏・北周・隋・唐の四王朝にわたって軍事力の柱をなしたとされる「府兵制」の研究は、歴大な研究成果を有しながら、未だ全体像を示し得ず、袋小路に陥って久しい感がある。その原因は、利用しうる関連史料が絶対的に少なかったこと、限られた編纂史料に十分な史料批判を加えずにその記述を鵜呑みにしてきたこと、および「府兵制」の生成・強化やその本質を、当時の国際情勢下で実際に果たした機能や、他時代・他地域の軍制との比較といった側面から検討する視座をほとんど欠いてきたこと、の3点にあると考えられる。

(2) こうした問題に対して、これまでに申請者は、後代の編纂史料の限界を克服するものとして、同時代に作られた石刻史料に注目し、西魏・北周・隋代の石刻史料の収集・基本情報のデータベース化とその一部の詳細な文献目録作成を実施し、編纂史料に文献学的立場から徹底的な史料批判を行ない、そもそも「府兵制」という概念自体が同時代には存在せず、後世の人士の様々な思惑のもとに仮想されたものであることを解明し、西魏から唐代にいたるまでモンゴリアを中心に強盛を誇った突厥に注目し、中国王朝との和戦両用の国際関係について詳細な検討を加え、さらに「府兵制」の前身とされる北朝期の二十四軍制が、北魏以前からの鮮卑北族的伝統を濃厚に受け継いだ擬制的部落兵制であったことを明らかにしてきた。

(3) また申請者は、そこからさらに一歩進めて、そもそも「府兵制」が対外戦争や国内治安維持といった機能にとどまらず、蕃漢を問わずに国内外の諸々の民族集団を、そのまま軍団として吸収・統制しつつ、その活動を許容し、あるいは利用していくこと、すなわち「羈縻」することを可能にした普遍性を持った軍事制度であり、この点こそが、いわゆる「隋唐世界帝国」の成立・維持・発展に制度的裏付けを与えるものであったのではないかとの見通しを得て、その概要を一部発表している。

(4) こうした既発表の自己の研究成果を踏まえ、これを一層発展させていくためには、北朝隋唐の支配者層と同じく遊牧民族に起源する契丹(遼)以降の所謂征服王朝の軍制の実態・特徴を十分に把握した上で、これらとの比較という視点を持ちつつ、未着手の唐代「府兵制」についての本格的な検討を行っていかねばならない。以上が、本課題の申請に至った背景と動機である。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、ユーラシア東部で興亡した諸国家の軍制を相互に比較検討することを

通じて、その中で遊牧民族的特徴を備えた「遊牧軍制」の系譜が脈々と受け継がれている実態、北朝隋唐期の「府兵制」もこの系譜の上に位置づけられるという新たな事実、の2点の解明を目指す。

(2) また、これによって従来の「中国史」「東アジア史」といった小さな枠組みを超越したところで、新たな軍制研究、およびそこからさらに一歩を進めて、軍事力を背景とした「隋唐世界帝国」の統治機構・支配構造を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 本研究は、北朝・隋・唐時代の軍事・外交史を専攻してきた申請者が、個人で遂行する研究である。時間・費用ともに困難の大きい現地調査による未公開史料の調査等は敢えて行わず、その分、先行研究の成果を丹念に押さえることと、すでに公開されている歴大な新出石刻史料を中心とする史料群の新たな活用とを積極的に進めていく。

(2) 平成24年度には、軍制関係研究論文の収集と学説整理、および関連する墓誌史料の解読・分析を集中して行い、そこで得られた情報をもとにして、25年度には、唐代「府兵制」を「遊牧軍制」として捉え直す論考を発表し、26年度には、前2年度の成果を踏まえて、「府兵制」を中核とする唐の帝国構造を解明する。

4. 研究成果

(1) 研究開始初年に当たる平成24年度には、当初の計画に従って、遼(契丹)・金・元(モンゴル)・清等の所謂征服王朝の軍制関係研究論文の収集・整理作業に従事して、その大要の把握に努めるとともに、次項「5. 主な発表論文等」の論文において、重要な記述を含む墓誌史料に詳細な訳註を施すことで、隋唐帝国形成期における軍事集団の動向の一端を解明した。

(2) 研究開始2年目に当たる平成25年度には、当初の計画では、唐代の「府兵制」を「遊牧軍制」として捉え直す論考を発表することにしていたが、「府兵制」と密接不可分ないしその中核的な構成要素である皇帝親衛兵組織について検討することが、当該時期の軍制を再検討する上で鍵となることに思い至ったため、次項「5. 主な発表論文等」の〔雑誌論文〕を執筆してこの課題に取り組みとともに、〔学会発表〕の国際学会において、自身の考えを公表した。その一方で、個別研究を踏まえた全体像の提示も必要だと考え、〔学会発表〕の講演を行ったほか、〔その他〕に挙げたとおり、研究成果をまとめて博士学位請求論文を提出し、審査

を経て博士号を授与された。このように、若干の軌道修正を加えることによって、想定していた以上の質と量の成果を成果を上げることができた。

(3) 研究最終年度に当たる平成26年度には、前2年度の成果を踏まえて、いっそうの展開をはかるべく、まずは次項「5. 主な発表論文等」〔学会発表〕の発表を行い、質疑応答を経て得た新たな知見を盛り込みつつ、これを〔雑誌論文〕にまとめ、「府兵制」を中核とする唐の帝国構造が、これまで注目されてきた律令に基づく「南衙」の官制機構に加えて、皇帝親衛兵の駐屯する「北衙」を中心とした、皇帝と家臣との人的結合が物を言う家政的支配空間との、いわば南北の二元的な構造になっていたことを解明した。さらにこれと良く似た構造を持つと考えられる遼(契丹)の国制との比較を、〔学会発表〕において行ない、今後引き続き行うべき研究への展望を示しておいたが、以上の如く、本研究申請時に掲げた目的は、研究期間内に完遂することができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

平田陽一郎、隋・郁久閭可婆頭墓誌の訳註と考察、沼津工業高等専門学校研究報告、第49号、2015、75-80、
<http://ci.nii.ac.jp/naid/>

平田陽一郎、皇帝と奴官 唐代皇帝親衛兵組織における人的結合の一側面、史滴、36号、2014、52-78、
<http://ci.nii.ac.jp/naid/40020370801>

平田陽一郎、北朝後期における皇帝親衛兵の系譜 二十四軍から禁軍へ、第3回中国中世(中古)社会諸形態国際大学院生若手研究者学术交流論壇論文集、2014、183-193、
<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~asiashi/schedules/schedule226.pdf#search=%E4%B8%AD%E5%9B%BD%E4%B8%AD%E4%B8%96%EF%BC%88%E4%B8%AD%E5%8F%A4%EF%BC%89>

平田陽一郎、隋代の給使について、沼津工業高等専門学校研究報告、第48号、2014、251-256、
http://ci.nii.ac.jp/els/110009794646.pdf?id=ART0010292456&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1428554578&cp=

平田陽一郎、隋・趙世摸墓誌の訳註と考察、沼津工業高等専門学校研究報告、第47号、2013、409-414、
http://ci.nii.ac.jp/els/110009559881.pdf?id=ART0010006605&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1428554344&cp=

〔学会発表〕(計4件)

平田陽一郎、唐代府兵制を中心とした遊牧軍制の比較研究序説、第49回遼史を読む会、2015.3.2、関西大学セミナーハウス(兵庫県神戸市)

平田陽一郎、皇帝と奴官 唐代皇帝親衛兵組織における人的結合の一側面、第51回中央アジア学フォーラム、2014.7.26、大阪大学文学部(大阪府豊中市)

平田陽一郎、中国北朝隋唐期軍事制度研究の現状 兵農一致と兵牧一致のあいだ、第39回早稲田大学東洋史懇話会大会、2014.3.22、早稲田大学文学部(東京都新宿区)

平田陽一郎、北朝後期における皇帝親衛兵の系譜 二十四軍から禁軍へ、第3回中国中世(中古)社会諸形態国際大学院生若手研究者学术交流論壇、2014.2.28、明治大学文学部(東京都千代田区)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕
出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

博士學位論文『隋唐帝国形成期における軍事と外交』、2013年11月に早稲田大学に提出(全410頁)、2014年3月18日の公開審査会を経て、2014年4月16日付をもって博士(文学)の学位を取得(早稲田大学学位記番号:第6697号、文部科学省報告番号:乙4286号)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

平田 陽一郎 (HIRATA, Yoichiro)
国立沼津工業高等専門学校・教養科・准教授
研究者番号: 50353280

(2) 研究分担者

なし()

研究者番号:

(3) 連携研究者

なし()

研究者番号: